

# 事業計画書

(平成31年4月1日から平成32年3月31日まで)

## 1. 自然普及事業

自然環境の保全とその適正な利用にかかる調査研究、人材育成、普及啓発、顕彰、森林利活用の推進などの事業を行う。

### (1) 調査研究事業

阿寒川水系の水と森林に関する調査を引き続き実施する。財団が管理する森林内を流れる阿寒川水系上流域における3河川（キネタンベツ川・チクショベツ川（平成16年度より継続）、チュウレイ川（平成27年度より継続））で降雨量、流量、土砂濃度等の調査、水の量・質などの調査を行う。

|     |                              |
|-----|------------------------------|
| 事業費 | 1,200,000円（前年度予算 1,180,000円） |
|-----|------------------------------|

### (2) 人材育成事業

#### 1) 一歩園自然セミナー開催事業

阿寒をはじめとする北海道内の野生動植物や自然現象、自然と文化の関わりなどをテーマとして釧路市など近隣市町村において自然セミナーを開催し、広く自然に対する意識を深める一助とする。

|     |                          |
|-----|--------------------------|
| 事業費 | 440,000円（前年度予算 551,000円） |
|-----|--------------------------|

## 2) 前田奨学金助成事業

高等学校以上の就学能力がありながら、経済的理由により進学が困難な者に対し、広く高等教育を通して自然環境の保全などに関する知識の習得を促進するため、前年度に引き続き、釧路市前田奨学金に対して助成を行う。

事業費

1, 000, 000円（前年度予算 1, 000, 000円）

## (3) 普及啓発事業

### 1) 観察会開催事業

阿寒湖並びに当財団管理森林周辺において釧路市児童などを対象とした実体験型自然観察会（ネイチャーウォッチング、自然観察支援事業等）を実施し、自然環境の保全に深い理解と関心を持ち行動ができる人材の育成に寄与する。

事業費

548, 000円（前年度予算 566, 000円）

### 2) 自然環境保全活動助成事業

北海道の自然環境の保全とその適正な利用に関する活動、調査研究、及びその普及啓発用報告書・成果品の刊行に対し助成を行うとともに、平成30年度の助成対象者により実施された事業についての報告会を（公財）秋山記念生命科学振興財団と合同で実施する。

事業費

6, 168, 000円（前年度予算 6, 228, 000円）

### 3) 森林利活用推進事業

財団創立30周年を契機に取り組みを開始した当財団管理森林をフィールドとする「森の学校」事業において、「教育の森」では学校教育の現場で森林並びにその取巻く環境（地形・地質・野生動植物・河川等）を活用できる教員育成に資するため、北海道教育大学釧路校と連携し同教育大学生を対象とした研修を実施した。

また、「レクリエーション・健康の森」では観光面での当財団管理森林（光の森・湖北の森）における活用の向上も鑑み、当財団が認定した「一步園森の案内人（ガイド）」による入林申請の利便性を高め、入林に関する諸情報の把握にも寄与できるインターネットを活用したWEB入林システムを構築し運用を開始した。

研究の森では東京農業大学生物産業学部との連携協定に基づき財団管理森林内において天然林やエゾシカをテーマにした「卒業研究（４年次４名、３年次３名）」、「天然林における実習（３年次１８名）」、「“オホーツク学”実習（１年次延べ６８名、２日間実施）」に対する支援（フィールド案内、講師）を実施した。

平成３１年度については引き続き「教育の森」に重点を置きながら、「レクリエーション・健康の森」では認定した「一步園森の案内人」により組織された任意団体「阿寒湖森の案内人協会」との情報共有並びに連携を図るとともに、阿寒湖の住民を対象に森林に触れ合う機会を提供していく。また、「研究の森」においては前年度に引き続き、管理森林を活用し、実習・研究等を実施する計画である。

平成３１年度は、「森の学校」事業として次の内容を計画する。

「教育の森」

・指導者養成

北海道教育大学釧路校との連携（次世代の教育者に対する教科教材に資するための自然観察、体験の提供）

① 光の森における教科教育を主眼とした自然素材の収集、調査活動。

② ①を活用した学生主体のデモプログラムの実施。

「レクリエーション・健康の森」

・阿寒湖温泉地域の地元住民を対象とした森林散策会の実施。

「研究の森」

- ・東京農業大学生物産業学部 卒業研究実施支援（４年次、３年次）
- ・東京農業大学生物産業学部 天然林における実習支援（３年次）
- ・東京農業大学生物産業学部 生物産業体験実習支援（１年次）

事業費

８４５，０００円（前年度予算 １，４１９，０００円）

４）セミナーハウス改修事業

森林利活用推進事業に係る森の学校事業の「教育の森」、「研究の森」において当財団管理森林内で活動する大学生の拠点として活用されている「セミナーハウス」の老朽化等により休憩、宿泊に支障をきたしていることから、施設の一部（トイレ・洗面所・内装等）の改修工事を実施する。

事業費

５，０００，０００円（前年度予算 ０円）

（４）顕彰事業

北海道の自然環境の保全とその適正な利用に関する分野で活躍している団体、個人の優れた業績をたたえて前田一步園賞（３００，０００円／件×２件）を贈呈する。また、未来の自然環境を担う子供たち（小中学生）の自然環境の保全活動の取組みの励みとするため、一步園ジュニア自然環境賞（１００，０００円／件×２件）及び奨励賞（５０，０００円×５件）を贈呈する。

事業費

２，５８８，０００円（前年度予算 ２，３３８，０００円）

## (5) 地域保全事業

### 1) 山火事予消防活動助成事業

阿寒湖畔地区の森林を火災から守るため、森林愛護思想の普及啓発と山火事予消防活動への支援、装備の充実に必要な用具などに対して助成を行う。

|     |                          |
|-----|--------------------------|
| 事業費 | 300,000円（前年度予算 300,000円） |
|-----|--------------------------|

### 2) エコミュージアムセンター活動助成事業

阿寒湖畔地区におけるエコミュージアムセンターの活動に対して助成を行い、地域環境の保全に資する。

|     |                          |
|-----|--------------------------|
| 事業費 | 800,000円（前年度予算 800,000円） |
|-----|--------------------------|

## (6) 前田記念館管理事業

前田記念館および庭園の整備と保守管理を行う。

|     |                          |
|-----|--------------------------|
| 事業費 | 900,000円（前年度予算 900,000円） |
|-----|--------------------------|

## 2. 森林保全事業

基本財産である山林は、全域が国立公園特別地域、水源かん養等保安林及び鳥獣保護区に指定されており、公益的機能の維持・向上が強く求められている。このため、森林を適正に保全し、風致景観や野生鳥獣生息環境などの、森林のもつ多面的な機能を維持・向上するため、平成31年度においても引き続き保全管理・人工林保育・天然生林改良の各事業を行う。

## (1) 保全管理事業

### 1) 巡視事業

山火事予防、入林者の危険防止、立木の盗伐防止のため林道入口に監視人を配置するとともに、阿寒湖畔沿いにある道有地の自然環境の保全等について北海道と結んでいる「公有財産管理委託業務契約」に基づき、当該土地及び立木の管理に関する業務を行う。

事業費

2, 0 0 0, 0 0 0 円（前年度予算 2, 0 0 0, 0 0 0 円）

### 2) エゾシカ食害対策事業

北海道の発表によると平成29年度のエゾシカによる道内農林業被害額は39億2,800万円（前年度比1,100万円増）であった。被害額は平成23年度における64億0,900万円をピークに平成28年度までの間、年々減少していたが平成29年度において増加に転じた。北海道では平成12年度より「エゾシカ保護管理計画」を策定し個体数管理等の取り組みを推進しており、現在第5期（平成29年度策定）の管理期間（5年間）である。第5期計画期間において個体数指数（釧路市を含む東部は平成5年度の指数を100と設定）を50以下にする目標を設定しているが、平成29年度の東部個体数指数は114であった。

なお、同計画において個体数指数50は「大発生水準」、25を「暫定目標水準」と定めており、これらの状況を踏まえると、依然捕獲対策の推進が必要な状況にあると考えられる。

このような中であって、財団管理森林内においてはこれまで継続してきた給餌や囲いワナによる捕獲といった対策事業により樹皮喰等の被害を抑制することに成功しているが、楽観視はできない状況である。

このため、平成31年度も前年度同様「ビートパルプの給餌」、「囲いワナによる捕獲」、「樹皮防護ネット巻き」といった対策事業を継続して実施することにより森林被害防止に努める。

対策事業実施にあたっては、近年の給餌実績・捕獲実績を勘案した事業量とする（給餌量５４トン（前年度計画比６トン減）、囲いワナ数２基（前年同数））。これらの対策とあわせて、エゾシカの生息状況や給餌事業の効果などについて、大学や研究機関と連携して調査を行う。

事業費 9,340,000円（前年度予算 9,170,000円）

### ３）林道事業

春の雪解け後の全山林道・作業道の支障木除去、ならびに既設の林道・作業道の補修・改良、およびゲート等の関連設備の維持管理を行う。

事業費 4,580,000円（前年度予算 4,950,000円）

### ４）調査事業

人工林保育・天然生林改良の計画立案に必要な林況を把握するための調査を行う。また調査に必要な資材等を購入する。

事業費 1,800,000円（前年度予算 2,130,000円）

### ５）危険木等処理

危険木・支障木等の処理（伐採・移動等）を行う。

事業費 500,000円（前年度予算 500,000円）

## （２）人工林保育事業

### １）植樹祭事業

植樹祭に係る苗木の購入、地拵え、下刈を行う。

事業費

300,000円（前年度予算 750,000円）

2) 除間伐・枝打事業

植栽木の健全な成長を促進させるため、人工林78haの間伐、30haの保育間伐、33haの枝打、および伐採木（620m<sup>3</sup>）の搬出を行う。

事業費

21,710,000円（前年度予算 19,780,000円）

3) 人工造林下刈事業

植栽木の健全な成長を促進させるため、平成29年度の植栽地4.4haの下刈作業を行う。

事業費

160,000円（前年度予算 150,000円）

(3) 天然生林改良事業

1) 誘導造林事業

天然生林において林分構成の充実を図るため、平成28年度台風被害跡地12.56haの天然生林の樹下にエゾマツ・トドマツの苗木（8,000本）を植栽する。また平成32年度植栽予定地8ha（平成28年度台風被害跡地5ha含む）の地拵えを行う。

事業費

3,870,000円（前年度予算 3,730,000円）

2) 誘導造林下刈事業

植栽木の健全な成長を促進させるため、平成26年～30年の植栽地51haの下刈作業を行う。

事業費

1,810,000円（前年度予算 1,810,000円）

### 3) 天然生林間伐事業

天然生林において林分構成の充実を図るため、79haの間伐、20haの更新伐、500mの新規作業道整備および伐採木(630m<sup>3</sup>)の搬出を行う。

事業費 25,420,000円(前年度予算 28,230,000円)

### (4) 業務費

森林保全事業に係る「旅費交通費」、「諸謝金」、「雑費」。

事業費 1,350,000円(前年度予算 1,350,000円)

## 3. 土地貸付事業

基本財産である土地(山林、宅地等)は、全域が国立公園特別地域、保安林、鳥獣保護区に重複して、あるいは単独で指定されている。さらに阿寒湖畔の土地は、国立公園集団施設地区に指定されているなど、公益性が強く求められている。

このため、土地の管理保全及び適正な利用を図り地域の振興に資するため、前年度に引き続き土地の貸付を行う。

### (1) 土地保守・管理事業

財団所有地における土地の保守と管理を目的に、主に空地等の緑化(植栽等)やベンチ及び看板などの設置を行う。

また、市街地の財団管理地内において立木の成長や枯損木等により近隣家屋への支障や人的被害などの危険性が高いもの

について、調査・整理伐採を実施する。

事業費

1,000,000円（前年度予算 6,150,000円）

## （２）土地貸付

前年度に引き続き、表３－１のとおり土地の貸付を行う。

（表３－１）土地貸付等状況一覧

| 契約区分 | 平成 30 年 3 月現在 |                        | 平成 31 年 1 月現在 |                        | 備 考                  |
|------|---------------|------------------------|---------------|------------------------|----------------------|
|      | 契約件数          | 貸付等面積                  | 契約件数          | 貸付等面積                  |                      |
| 有償契約 | 204 件         | 519,555 m <sup>2</sup> | 204 件         | 523,925 m <sup>2</sup> | 電力会社送電線敷地 41ha を含む。  |
| 無償契約 | 19 件          | 346,115 m <sup>2</sup> | 20 件          | 356,991 m <sup>2</sup> | 北海道、釧路市、森林管理署、アイヌ協会外 |
| 計    | 223 件         | 865,670 m <sup>2</sup> | 224 件         | 880,916 m <sup>2</sup> |                      |

## 4. 温泉事業

当財団が所有する源泉は、阿寒湖温泉のほぼ全域のホテル・旅館等に温泉を供給しており、その公益性が強く求められている。このため、源泉及び温泉供給設備の拡充と安定供給体制をより一層強化するため、施設整備の計画的な推進を行う。

### （１）温泉供給施設の整備

#### １）揚湯ポンプの拡充事業

各源泉共通予備の温泉ポンプ（7.5kw×1台）及び、揚湯管（10本）を購入し、温泉の安定供給の確保に努める。

事業費

2,400,000円（前年度予算 2,400,000円）

## 2) 温泉供給施設の整備事業

平成27年度から行っている温泉供給設備（ヘッダー）の整備事業を引き続き31年度においても新神社源泉で実施する。

現在の塩ビパイプ製の設備をコンパクトなステンレス製に変更することによって耐久性を増し、長期間安定した供給が可能となることに加え、維持管理業務の効率化を進めることができる。

また、供給設備の適正な利用と長期的な保存を図る観点から、格納庫の新築も行う。

（参考：平成27年度は15号源泉、28年度は11号源泉、29年度には12号源泉）

|     |                  |     |
|-----|------------------|-----|
| 事業費 | 6,200,000円（前年度予算 | 0円） |
|-----|------------------|-----|

## (2) 資材組立作業台新規製作事業

温泉資材等の組み上げ時に使用する作業台（木製）が、経年劣化から破損し、業務に支障をきたしていることから、新たにステンレス製の作業台を製作し作業効率の向上を図る。

|     |                |     |
|-----|----------------|-----|
| 事業費 | 500,000円（前年度予算 | 0円） |
|-----|----------------|-----|

## (3) 源泉及び温泉供給設備の管理

平成31年1月現在の当財団所有源泉数は前年度から増減なく15本（揚湯中11本、休止2本、観測井2本）である。前年度に引き続き、平成31年度においてもこれら源泉及び温泉供給設備の管理保全に努める。

#### (4) 温泉供給

前年度に引き続き、表４－１のとおり温泉供給を行う。

(表４－１) 温 泉 供 給 状 況 一 覧

| 供給区分 | 平成 30 年 3 月現在 |       | 平成 31 年 1 月現在 |       | 備 考           |
|------|---------------|-------|---------------|-------|---------------|
|      | 契約件数          | 供給本数  | 契約件数          | 供給本数  |               |
| 有償供給 | 66 件          | 299 本 | 64 件          | 297 本 |               |
| 無償供給 | 3 件           | 4 本   | 3 件           | 4 本   | 北海道（阿寒湖畔診療所）等 |
| 自家用  |               | 3 本   |               | 3 本   | 暖房等財団諸施設      |
| 計    | 69 件          | 306 本 | 67 件          | 304 本 |               |

## 5. その他

#### (1) ホームページ管理委託事業

ホームページ及び、入林申請システムの管理・更新等を委託する。

事 業 費

216,000円（前年度予算 120,000円）